



TITLE:

表紙、序、例言、目次、図版目次
、挿図目次、表目次、中扉、奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙、序、例言、目次、図版目次、挿図目次、表目次、中扉、奥付.
京都大学構内遺跡調査研究年報 2009, 2004-2006

ISSUE DATE:

2009-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226580>

RIGHT:

京都大学構内遺跡調査研究年報

2004～2006年度

京 都 大 学 文 化 財 総 合 研 究 セ ン タ ー

序

この年報は2004年度から2006年度の3年間にわたっておこなった、学内の遺跡調査の成果とそれに関連する研究をまとめたものである。それぞれの調査は学内の施設の建設予定地内の遺跡を対象としたものであるが、先史時代から近世にわたる従来の成果に、新たな知見を加える資料も得られている。また第Ⅱ部の紀要においては、吉田キャンパスを含む比叡山西南麓の北白川の地形や環境の形成に大きな転機をもたらした、弥生時代の土石流の規模や影響が及んだ範囲などについて考察したものである。

こうした成果が有効に活用されるように社会へ広く発信することは、大学の調査機関としての責務であり、調査時の現地での説明会、当センターのホームページなどを通じて情報の公開を図るとともに、大学がおこなう社会へ向けたさまざまな行事のさいには、尊攘堂を利用して過去の発掘調査による出土資料を公開している。この年次報告もその一端を担うものであり、ご高覧いただきご批評をお願いしたい。

埋蔵文化財研究センターは2008年4月に改組され、学内共同利用施設の文化財総合研究センターとして発足した。従来と同様に学内の施設の建設にともなう埋蔵文化財の調査を実施するとともに、文化財の分析・保存および活用などに関する、学際的な領域の研究の拠点となり、構内遺跡という良好なフィールドを活用した研究者の養成の場ともなることを目指している。学内学外の多くの方々のご指導とご教示を仰ぐとともに、本センターを有効に活用していただくよう願っている。

おわりに、本年報で報告した調査を進めるにあたっては、多くの方々からご指導ご助言をいただいた。とりわけ、発掘を実施するにあたってご協力を賜った、施設環境部、人間環境学研究科、総合人間学部の関係各位に、厚くお礼申し上げる次第である。

2009年3月

京都大学文化財総合研究センター長

上 原 真 人

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で2004年4月1日から2007年3月31日までに発掘、整理作業をおこなった埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学文化財総合研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系（日本測地系、 $x = -108,000$
 $y = -20,000$ ）が（ $X = 2,000$ $Y = 2,000$ ）となる京都大学構内座標により表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良文化財研究所の方式にしたがって、井戸：S E，土坑：S Kのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。
Ⅰ：京都大学北部構内B C 30区の発掘調査
Ⅱ：京都大学本部構内B A 22区の発掘調査
Ⅲ：京都大学吉田南構内A P 21区の発掘調査
Ⅳ：京都大学構内における分布調査・立合調査
（例 Ⅰ Ⅰ：京都大学北部構内B C 30区出土遺物1番）
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のもの、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 参考文献は、本文中に〔著者名 発表年〕の形式で表わし、巻末に一括した。
- 8 古代・中世土師器の型式分類は、とくにことわりがない場合、『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ』（1981年）にしたがっている。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに列記した。また、遺物の撮影は、それぞれ報告者が担当した。
- 10 編集は、笹川尚紀が担当し、清水芳裕、千葉豊、伊藤淳史、富井眞、磯谷敦子、北尾敬子、柴垣理恵子が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 2004～2006年度

目 次

第Ⅰ部 京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 2004～2006年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	1
第2章 京都大学北部構内B C 30区の発掘調査	3
1 調査の概要	3
2 層 位	4
3 遺構と遺物	7
4 小 結	13
第3章 京都大学本部構内B A 22区の発掘調査	15
1 調査の概要	15
2 層 位	15
3 遺 構	17
4 遺 物	20
5 小 結	23
第4章 京都大学吉田南構内A P 21区の発掘調査	25
1 調査の概要	25
2 層 位	26
3 遺 構	28
4 遺 物	30
5 小 結	39

第5章 京都大学構内における分布調査・立合調査	41
1 京都大学 桂キャンパスにおける分布・立合調査	41
2 芦生研究林構内の立合調査	46
3 本部構内の立合調査	47
4 京都大学北部構内B D30・33区の立合調査	51
参 考 文 献	55
京都大学構内遺跡調査要項	57
報 告 書 抄 録	65

第Ⅱ部 京都大学文化財総合研究センター紀要XIX

弥生時代の砂質土石流堆積物の地点別粒度分析

——京都盆地東北部の白川弥生土石流の堆積物調査——

1 はじめに	69
2 白川弥生土石流の概略	70
3 粒度分析	70
4 考 察	81
5 おわりに	85

図 版	巻末
-----	----

図 版 目 次

- 図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 図版 2 京都大学北部構内 B C 30 区
- 1 表土除去後，調査区全景（南から）
 - 2 茶褐色土上面検出の遺構（北から）
 - 3 黄色砂上面検出の遺構（南から）
- 図版 3 京都大学北部構内 B C 30 区
- 1 暗褐色粘質土上面（南から）
 - 2 調査区中央南北トレンチ（北から）
 - 3 調査区東壁，洪水性堆積物（南西から）
 - 4 縄文土器出土状況（東から）
 - 5 調査区北壁の層位（南から）
 - 6 調査区南壁の層位（北から）
- 図版 4 京都大学北部構内 B C 30 区
- 1 縄文土器，弥生土器
 - 2 S P 5 出土遺物，S P 12 出土遺物，黒褐色土出土遺物
- 図版 5 京都大学本部構内 B A 22 区
- 1 A 区完掘後全景（南から）
 - 2 A 区北壁の黄色砂（南から）
 - 3 A 区暗灰色土上面（東から）
 - 4 C・D 区完掘後全景（南から）
 - 5 E 区東壁（西から）
- 図版 6 京都大学本部構内 B A 22 区
- 1 先史時代の土器
 - 2 石鏃
 - 3 石鏃（同上裏面）
- 図版 7 京都大学吉田南構内 A P 21 区
- 1 黄色砂上面遺構完掘全景（南から）
 - 2 溝 S D 2（吉田二本松 7 号墳周溝）内須恵器出土状況（西から）
 - 3 集石 S X 1 検出状況（東から）
 - 4 調査区西壁北半の層位（S D 2・黄砂・黒褐色土）
- 図版 8 京都大学吉田南構内 A P 21 区
- S D 2 出土遺物，S K 3 出土遺物，茶褐色土出土遺物

図版 9 京都大学構内における分布調査・立合調査

芦生研究林構内の立合調査

- 1 調査地全景（南東から）
- 2 職員宿舎地点（西から）
- 3 職員宿舎地点南壁層序（北から）

図版10 京都大学構内における分布調査・立合調査

本部構内各地点の立合調査（その1）

- 1 335地点全景（西から）
- 2 335地点西壁藩邸堀断面確認状況（東から）
- 3 329 e ・ 336 a 地点付近全景（南から）
- 4 329 e 地点近世白色粗砂層検出状況（西から）
- 5 329 f 地点付近全景（南西から）
- 6 329 f 地点近世路面層断面確認状況（南から）

図版11 京都大学構内における分布調査・立合調査

本部構内各地点の立合調査（その2）

- 1 326地点全景（東から）
- 2 326地点断面黄色砂確認状況（南から）
- 3 329 b 地点掘削状況（東から）
- 4 329 b 地点掘り上げ状況（東から）
- 5 329 b 地点北壁（南から）
- 6 329 a 地点煉瓦組水路確認状況（南から）

挿 図 目 次

北部構内B C 30区の発掘調査

図1	調査区の位置	3
図2	調査区北壁の層位	4
図3	調査区南北方向の層位	5
図4	検出遺構	8
図5	灰白色細砂, 明褐灰色細砂, 青灰色細砂, 灰褐色シルト, 灰色シルトⅡ, 淡褐色シルト, 暗褐色粘質土, 表土出土土器	9
図6	S P 5, S P 12, S P 1, 黒褐色土出土遺物	10
図7	茶褐色土下部, 茶褐色土上部出土遺物	11

本部構内B A 22区の発掘調査

図8	調査地点各区の層位	16
図9	近世の遺構	18
図10	先史時代の様相	19
図11	先史時代の遺物	21
図12	歴史時代の遺物	22

吉田南構内A P 21区の発掘調査

図13	調査区の位置	25
図14	調査区西壁の層位	27
図15	調査区検出の遺構	29
図16	黒褐色土, S D 2, S K 3 出土遺物	32

図17	S D 1, S D 3, S K 2(1), S P 18(1), 茶褐色土(1)出土遺物	33
-----	--	----

図18	S X 1 出土遺物	35
-----	------------	----

図19	S K 1, S K 2(2), S P 2, S P 10, S P 15, S P 16, S P 18 出土遺物	36
-----	---	----

図20	茶褐色土出土遺物(2)	37
-----	-------------	----

図21	茶褐色土出土遺物(3)	38
-----	-------------	----

図22	調査区周辺の古代以前の遺構	39
-----	---------------	----

構内における分布・立合調査

図23	桂キャンパスの位置	41
-----	-----------	----

図24	分布調査地点	43
-----	--------	----

図25	G 地点採集遺物	44
-----	----------	----

図26	芦生研究林と立合調査地点の位置	46
-----	-----------------	----

図27	本部構内の関連調査地点	48
-----	-------------	----

図28	335地点尾張藩邸堀埋土, 336 a・b 地点白色粗砂混じり灰褐色土(1) 出土遺物	49
-----	---	----

図29	336 a・b 地点白色粗砂混じり灰褐色土(2), 329 e 地点白色粗砂層, 329 f 地点白色粗砂層, 329 f 地点路面層出土遺物	50
-----	---	----

図30	調査地点の位置	51
-----	---------	----

図31	各地点の層位模式図	52
-----	-----------	----

弥生時代の砂質土石流堆積物の地点別 粒度分析	
図32 採取地点の位置と白川……………69	
図33 採取地点と黄色砂の堆積……………71	
図34 K S (N)系統の状況……………73	
図35 K S (S)系統の状況……………74	
図36 T系統とL系統の状況……………75	
図37 K S (N)系統の各試料の粒度分布・ 正規化曲線と全体の粒度分布の正 規確率紙上プロット……………88	図39 T系統の各試料の粒度分布・正規 化曲線と全体の粒度分布の正規確 率紙上プロット…………… 106
図38 K S (S)系統の各試料の粒度分布・ 正規化曲線と全体の粒度分布の正 規確率紙上プロット……………96	図40 L系統の各試料の粒度分布・正規 化曲線と全体の粒度分布の正規確 率紙上プロット…………… 119
	図41 K S (N)系統の粒度特性の 垂直変動…………… 124
	図42 K S (S)系統の粒度特性の 垂直変動…………… 125
	図43 T系統の粒度特性の 垂直変動…………… 126
	図44 L系統の粒度特性の 垂直変動…………… 127

表 目 次

表1 京都大学構内のおもな調査……………58

第 I 部 2004～2006年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

- 第 1 章 2004～2006年度京都大学構内遺跡調査の概要
- 第 2 章 京都大学北部構内BC30区の発掘調査
- 第 3 章 京都大学本部構内BA22区の発掘調査
- 第 4 章 京都大学吉田南構内AP21区の発掘調査
- 第 5 章 京都大学構内における分布調査・立合調査

第Ⅱ部 京都大学文化財総合研究センター紀要 XIX

弥生時代の砂質土石流堆積物の地点別粒度分析
——京都盆地東北部の白川弥生土石流の堆積物調査——

富井眞 谷口圭輔

2009年3月31日 発行

京都大学構内遺跡調査研究年報
2004~2006年度

編	集	京都大学文化財総合研究センター
発	行	京 都 市 左 京 区 吉 田 本 町
印	刷	三 星 商 事 印 刷 株 式 会 社
製	本	京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300